

平成30年1月28日

第3回 学校運営協議会議事録

協議会委員

堅田利明、福田順子、北村 剛、森 隆裕、藤田佳久、井谷和子

本校出席者

松浦正明 校長

田原 聡 教頭

山口範晃 事務長

前出和彦、富田哲司、中村秀治、藤本信吾、梅崎 亮

進行 本校教頭 田原 聡

1 校長挨拶

第2回以降の主な行事等の報告。

一年間の振り返り

今回は学校経営に関して今年度の総括と次年度の計画を提示する。今後の枚方高校のあり方について活発な議論をお願いしたい。

2 事務局より

(1) 学校経営計画と授業アンケートの取り組みについて

①学校経営計画

現在の教育現場の置かれている状況（外的要因）

学習指導要領の改訂（2022年度）

新入試（2020年度）

国際教養科のあり方

働き方改革に基づいた部活動のあり方

本校の現状に基づいた課題（内的要因）

学習指導のあり方

生徒指導のあり方

進路指導のあり方

これらの状況をふまえつつ枚方高校の今後がどうあるべきかを考察していく必要がある。（2019年度学校経営計画は4月以降にHPにて掲載予定）

②授業アンケート結果報告

全項目の平均値や生徒の満足度は前年度より増加した。

授業改善の取り組みや ICT 教材の活用推進が効果的に作用したと考えている。

(2) 学校教育自己診断について

生徒・保護者・教員の診断結果を分析し報告した。

詳しいデータは HP に掲載予定。

(3) 進路指導部より

①今年度の進路状況

新入試を控えて受験生が「安全志向モード」に入っている。

本校でも指定校や公募推薦で受験する生徒が増える傾向がある。

②1、2年生の取り組み

模擬試験に積極的に取り組む生徒が増えている。

外部講師や卒業生を招いての講演

司会交代 田原氏から堅田氏

3 質疑応答

Q 学校教育自己診断について。報告の中に、「授業改善の成果」はあがっているが「学問そのものや学ぶ事そのものに対する意義を粘り強く伝える努力も必要」とある。たしかに「学びに向かう力（学習に対する本質的な興味・関心・意欲）」の育成は難しいが、ぜひ努力をしてほしいところである。枚方高校の取り組みは一定の成果を出していると感じる。この結果について、「授業力改善チーム」の取り組みとの関連はあるか。それとも教員個人個人の力か。

A 両方あると考えている。個人が努力する部分も大きいですが、チームの働きも大きい。授業公開の推進や特別企画である「新しい授業のあり方を探る」の実施、ICT 機器の利用推進、初任者研修（本講独自）などを通して常によりよい授業を志向して日々の教育活動に取り組む雰囲気があると感じている。

Q 働き方改革の取り組みについて教えてほしい。

A 残業時間の多い先生方には早めの声かけをして、注意を促している。部活動の取り組みをどうしていくのか、今後しっかり検討をしていきたい。

Q 学校の残業率は出ているか。

A 残業率というものはないが、個々の先生方の勤務実態については把握している。

司会 最後に、なにか全体を通じてアドバイスがあればお願いしたい。

A 先生方のアンケート提出率が低いように思う。回収時にチェックをしていただくなど工夫をして、是非回収率100%を目指してほしい。

A 模試やGTECなどの導入について、経済的に厳しい家庭への配慮が必要。

司会 貴重なご意見をありがとうございました。いただいたご意見は、ぜひとも今後の学校経営に生かしていきたいと考えております。

司会交代 堅田氏から田原氏へ

校長 1年間の御礼

最初にお話ししたように高等学校の教育も大きく変わろうとしている。本校の生徒も教員もよく頑張っているが、今後とも様々なご助言をいただきますようお願い申し上げます。

田原教頭

閉会の辞